

作成: 芝崎

58. 家族の思い出篇: 父の意外な側面を垣間見る/関東大震災 100 年にして思い出す

- (1) 私の家族は父母妹の 4 人家族。下名が小学生の時、4 人で団欒中急に地震が、震度が低いので、じっと揺れの収まるのを待つ、すぐに揺れ減衰して収まった。家族 4 人でいたはずの父がいない…母にお父さんは?と聞くと、家の外にいるよとの事、なんで??
- (2) 関東大震災に遭遇したのは父だけ。母は震災の何年後かの生まれ。父が遭遇したのは幼年期であり、記憶が残る時期でその強烈な地震はトラウマのごとく脳裏に残っていて、離れない。だから、たとえ震度の低い地震、わずかな揺れでも条件反射で無意識で体が自然に反応してしまうとのことだった。
- (3) いつも悠然と構えている【沈着冷静かな?】父の姿から見ると、驚くべき身のこなしの速さでそのギャップにびっくりさせられた。それだけ関東大震災がすごい地震だったのであろう。
- (4) 父が住んでいたのは千葉県/館山市; 相模湾が震源地であったが、館山も地層の関連で同等の震度だった。これで納得。一生付きまとう大きなインパクトだったんだと改めてつくづく思う。しかし、父は晩年、埼玉/浦和に住んでいたが、**東北大震災**横浜: 震度 5 強で、埼玉も 5 度強あったと思うが、かなりの揺れで生きていれば父は 92 歳かなりのショックを受けたかもしれないが、せめてもの救いだったと思っている。

と: 突(と)然に大地震が襲ってくる

ら: (ら)ラジオ等聞いて状況確認する余裕はない

う: 牛(う)のような動きではだめ、脱兎のごとく逃げるべし

ま: (ま)さに待ったなし、自身の身を守ることが肝心

地震の際、速やかに家から避難するかは自身の勘のみ、でも自信過剰で大丈夫と思うには危険、父の貴重な体験を生かすことは今度とも大事かもしれないと思っている。

日頃の防災訓練準備は必要であるが、地震なら、家から脱出するのが一番かもしれない!!



1923.9.1(震災時/大正 12 年)

現在 2023



震度状況

館山

旧横浜正金銀行本店 同左 → 神奈川歴史博物館に

関東大震災: 大正 12 年(1923).9.1 11:58 相模湾を震源 M7.9 地震 → 2023.9.1(100 年前)

宮城沖地震(東北大震災): 平成 23(2011).3.11 14:46 宮城沖を震源 M9.0 地震 → 12 年前

以上